

平成30年11月16日
(2018年)

保護者の皆さまへ

吹田市立南山田小学校
校長 上野 佳寿子

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

本年4月、6年生を対象として「平成30年度 全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬には個人ごとに結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

『平成30年度 全国学力・学習状況調査』とは・・・

①教科に関する調査(国語・算数・理科)

・主として「知識」に関する内容A問題⇒学習における基礎基本的な力を調べます。

・主として「活用」に関する内容B問題⇒知識技能を実生活の様々な場面に活用する力を調べます。

※理科はA問題、B問題に分かれておらず、1つの問題冊子の中に知識に関する問題と活用に関する問題が含まれています。なお、理科は3年に1度の調査です。

②生活習慣や学習環境等に関する調査(質問紙調査)

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関するアンケート調査です。

本調査は小学校最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数と理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを先ず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが調査本来のねらいであると考えます。

学校としましては、調査結果を客観的且つ組織的に分析することにより、どのような指導がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小・中学校における連続した取組みとなるよう、具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。

ご家庭におかれましても、以下の分析結果を今後の家庭学習の指針としてご理解のうえ、参考にしていただきますようお願いいたします。

I. 教科に関する調査

概要

国語 ◎A問題、B問題とも平均正答率が全国値を上回っています ↑

算数 ◎A問題は平均正答率が全国値を上回っています ↑
B問題は平均正答率が全国値を上回っています ↑

理科 ◎平均正答率が全国値を上回っています ↑

◎国語、算数、理科すべてにおいて平均正答率が全国値を上回りました。

成果と課題、今後の改善策

国

語

成果

話すこと

事例を挙げながら筋道を立てて話したり、司会の発言の役割について捉えたりする問題で、全国値を上回っています。普段の授業やクラス活動の中で、ペアトークやグループトークの意見交流・スピーチ等、経験を積み重ねることで力をつけることができています。

読むこと

登場人物の心情について考える問題で全国値を上回り、情景描写を基に読み取ることができています。

言語

漢字を文の中で正しく使う問題で全国値を上回りました。また、敬語を正しくつかう問題も全国値より上回っています。

課題

書くこと

目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書く問題が全国値より下回っています。



改善策

- ・ 語句の役割や語句相互の関係に気を付けて文を組み立てて考えられるよう、主語と述語、修飾語と被修飾語との関係をはっきりさせるとともに、「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成についての理解を深めていきます。

成果

A（知識）問題、B（活用）問題ともに平均正答率が全国値を上回っています。

課題

数と計算

1に当たる大きさを求める問題では、正答率は全国値を上回っていますが、無回答率が全国値を上回る結果となりました。

量と測定

単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を問われた問題では、正答率は全国値を上回っていますが、無回答率が全国値を上回る結果となりました。

図形

円周率の意味を問われた問題では、全国値を下回って、正答率が低い結果となりました。

数量関係

メモの情報とグラフを関連付け、着目点を記述する問題では、全国値を上回っていますが、正答率が低い結果となりました。



改善策

- ・ 基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着はもちろんのこと、計算の意味理解にも重点を置き、取り組んでいきます。
- ・ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて根拠を明らかにし、筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりする力を育成するよう、今後も取り組んでいきます。

算
数

理科

成果

全国的な平均正答率は、全国値を上回っています。

課題

- ・設問ごとにみていくと、他教科よりも全国値を下回っているものが複数みられます。正しい**器具の使い方**や**操作方法**などをどうしてそうするのか、**理由も合わせて理解**できていない面があります。
- 理科が好きな児童が多数みられますが、**思考、技能の面で課題**があります。



改善策

- ・授業を通して理科の実験や観察を楽しみながらも、**実験、観察の仕方**について、なぜそうするのか、なぜそのように器具を扱うのか、といった**根拠**も扱っていきます。
- 子ども自ら考えて操作を行う授業をつくっていきます。

Ⅱ. 学習意欲や学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査の傾向

学習環境・生活環境について

成果

- ・「学校の決まりを守っている」と答えた児童の数が全国値を上回っています。
- ・**読書に対する意識**が高く、「学校の授業時間以外に、普段1日あたりどのくらいの時間、読書をしますか」の項目では、全国値を上回っています。

課題

- ・「家で、学校の授業の**予習・復習**をしていますか」の項目では全国値を下回っています。
- ・**地域行事への参加経験**があると回答した児童が少なく、「**地域社会などでボランティア活動に参加したことはありますか**」の項目では、全国値を下回っています。



改善策

- ・児童は毎月、生活目標を意識して学校生活を送っています。引き続き、安全で安心な学校生活を送ることができる環境づくりを進めます。
- ・家庭での学習に意欲が持てるよう、授業における学習課題を家庭にもつなげられるようにします。また、計画的に学習を進める意識を持たせたり、自主的な学習を促したりする取り組みを今後一層大切にしていきたいと考えています。

教科・学習について

成果

- ・授業で学習したことを**普段の生活の中で活用**できないか考えると感じている児童の数が全国値を上回っています。
- ・**理科の学習が好き、大切**である、よくわかると答えた児童は全国値を大きく上回っています。
- ・課題の解決に向けて、**自分で考え、自分から取り組んでいた**と感じている児童の数が全国値を上回っています。

課題

- ・算数の勉強は大切だと思う児童が全国値を少し下回っています。



改善策

- ・本校では、児童一人ひとりの表現する力と紡ぎあう力をもった子どもの育成を目指しています。**自分の考えを伝え、高め合っていく**取り組みを続けていきます。
- ・理科では引き続き、**観察・実験**を多く取り入れ、子どもの興味・関心をひきつける授業を行います。
- ・算数では**日常生活と学習をつなげて考えられるような**取り組みを大切にします。

Ⅲ. 学校教育目標、努力目標委員会研究主題と調査結果の関係

学校教育目標

心を磨き、志を育む ～その根を培う～

—調査結果から見える南山田小の子どもたち—

①自ら学び考える【意欲的・主体的に学ぶ子ども】

- ◎話し合い活動で自分の考えを深めたり広げたりする。
- ◎授業では課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- ◎算数、理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える。
- ◎算数の問題で解き方が分からない時は諦めずにいろいろな方法を考える。
- ◎宿題をしている。▲家で予習、復習をする。



②なかまを思いやる

【違いを認め合い

豊かな人間関係を築く子ども】

- ◎いじめはどんな理由があってもいけない。人の役に立つ人間になりたい。

③自分を大切にする

【自尊感情と豊かな感性を持ち、たくましく生きる子ども】

- ◎自分にはよいところがある。
- ◎将来の夢や目標をもっている。家の人と学校の出来事について話す。

④こころ豊かな【進んで協力し、実行力のある子ども】 **みな小っこ**

◎学校のきまりを守る。

◎朝食を毎日食べている。毎日同じ時刻に寝ている。(起きている。)

1日の読書時間 2時間～ : 11.2% 1時間～2時間 : 11.6% 30分～1時間 : 24.2%
10分～30分 : 24.2% ～10分 : 11.2% 全くしないその他 : 17.7%

▲地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。

◎ : 全国値を上回っている ▲ : 全国値を下回っている

◆児童数が多くても全校朝会で時間前に集合して並び、静かに話を聞く南山田小学校の児童。

教育活動全体において個々の子ども理解に努め、子ども同士が関わり、協力し合う取組みを進めます。そして、それぞれの良さが発揮できる場面があることで『自分っていい!』と感じることができる自己有用感、自尊感情を育み、児童にとって安心、安全な学校づくりに全教職員で邁進いたします。また、ご家庭での生活習慣や家族との繋がりが児童の健全な育成につながっていることも伺えました。「ほめる・笑う・しかる」を”愛”言葉に、安らぎの場である家庭と学校とが手を取り合い、「子どもにとってどうすることが一番よいのか」を考えていきたい思いますので、これからもご協力よろしくお願い致します。

努力目標委員会研究主題

互いを認め、多面的・多角的に考える子の育成 ～自己を見つめ、紡ぎあう授業づくり～

本校の児童の課題は、アンケート結果にも見られるように、地域や社会とのつながりへの意識が薄く、受け身な姿勢が多く見られる点です。今年度から、「特別の教科」となった道徳科において、引き続き、互いの立場や考えを尊重して伝えあい、紡ぎあう力を身に付けることに取り組んでいます。そして、道徳科だけでなく、全教科でペア・グループ・全体の話し合い活動を通して、たくさんの考えにふれることで「互いを認め、多面的・多角的に考える子の育成」を目指して、さらに研究を進めていきます。

また、次期学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、子どもたちが自分自身の学びや友達と学び合うことの良さを実感できる授業づくりにも組織的に取り組みます。さらに、学習スタイル(めあての提示、自力解決の時間や話し合い活動の確保、振り返り実施)を確立するとともに小中一貫教育の視点で学びの連続性を意識した指導を行っていきます。